

## 10. 大阪・デリー救急医療人材育成プロジェクト

公立大学法人 大阪市立大学大学院 医学研究科

### 【現地の状況やニーズなどの背景情報】

インド側が立ち遅れており、スマトラ島沖地震などに代表される緊急かつ要請度の高い災害・救急医療教育の援助を求められている。

### 【活動内容】

日本側は災害・救急分野に、教育実績があり、かつ公的機関で海外との交流実績もある大阪市立大学とし、インド側は最大の公的医療教育機関である全インド医科大学（AIIMS）とする。ドクターヘリ実習も含めた災害・救急医療を本邦で行い、日本側からはインド側に専門家を派遣を行う。

### 【期待される成果や波及効果等】

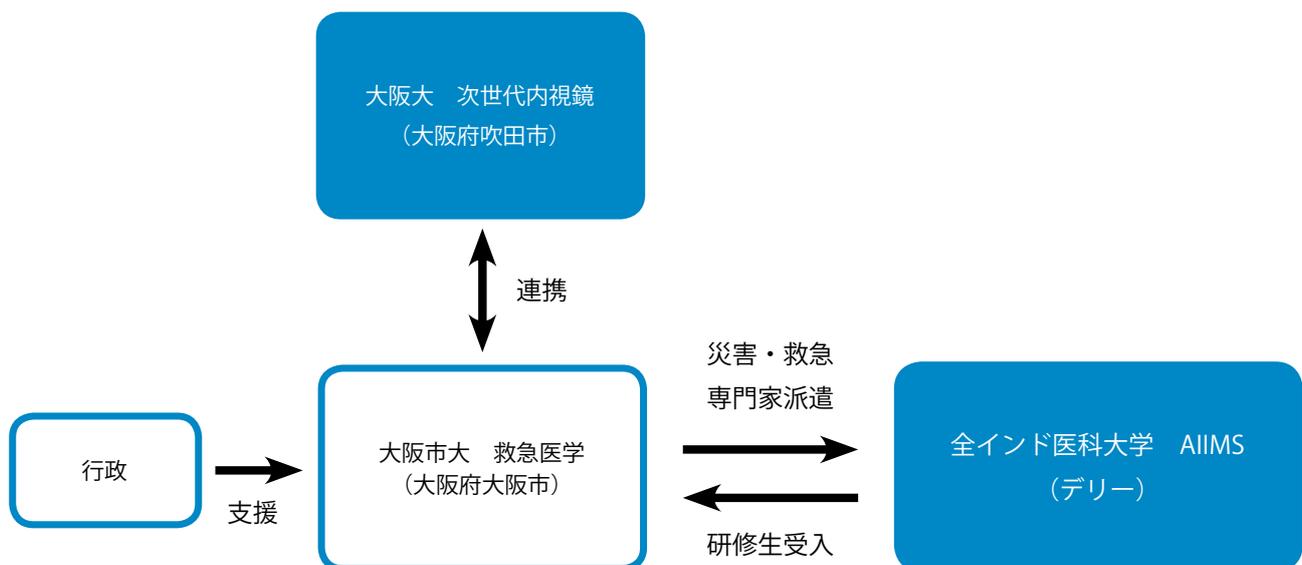
インドに日本式災害救急医療が普及することで、他の医療分野への友好協力関係の進展が期待できる。また周辺諸国への波及効果も期待できる。

### <活動概要> (2016年5月計画)

7月～12月 研修生受入 (10名)

- ・日本の災害救急医制度
- ・ドクターヘリの研修

8月～10月 専門家を派遣 (計5名)



平成 28 年 7 月から 12 月に我々は大阪・デリー救急医療人材育成プロジェクトを行いましたのでご報告致します。このプロジェクトは、インド側から緊急、且つ要請度の高い災害・救急医療教育の援助を求められるところから始まりました。具体的には、日本側は災害・救急分野に教育実績がある私ども大阪市立大学とし、インド側は最大の公的医療教育機関である全インド医科大学（以下 AIIMS）とし

ております。実習内容ですが、ドクターヘリ実習も含めて災害・救急医療の研修を本邦で行い、日本側からはインド側に専門家派遣を行って、現地の実態調査と講義を行うことを目標としております。この狙いとしましては、最終的にインド側に日本式の救急災害医療が普及することを目指しております。また、それによって他の医療分野への友好協力関係の進展が期待できると考えております。

事業結果概要						
① 外国人研修生の受入						
受入期間(移動も含む)	日数(移動含む)	出身国名	氏名	職種	所属	備考
H28.07.14~ H28.07.28	15	インド共和国	Gaurav Kumar	医師	全インド医科大学	
H28.07.14~ H28.07.28	15	インド共和国	Rachna	医師	全インド医科大学	
H28.07.14~ H28.07.28	15	インド共和国	Jyoti Agrawal	看護師	全インド医科大学	
H28.10.24~ H28.11.7	15	インド共和国	Shivam Patel	医師	全インド医科大学	
H28.10.24~ H28.11.7	15	インド共和国	Tamanna	看護師	全インド医科大学	
H28.10.24~ H28.11.1	9	インド共和国	Harshit Agarwal	医師	全インド医科大学	親族の急逝があり緊急帰国
H28.11.30~ H28.12.15	16	インド共和国	Anupam Kumar Ranjan	医師	全インド医科大学	
H28.11.30~ H28.12.15	16	インド共和国	Madhur Uniyal	医師	全インド医科大学	
H28.11.30~ H28.12.15	16	インド共和国	Renu Singh	看護師	全インド医科大学	

事業計画の内、外国人研修生の受け入れ、研修実績を表に示しております。平成 28 年 7 月から同年 12 月までの間に 3 チームに分け、インド側の研修生 9 名でそれぞれ約 2 週間の研修を行っております。それぞれのチームは、ER、

または外傷部門の医師 2 名、看護師 1 名の 3 人で構成しております。1 名だけ途中で帰国した方がおりましたが、それ以外はほぼ予定通り 15 日間から 16 日間の研修を終えて帰国されております。

全インド医科大学研修生に実施したスケジュール(2016年7月分)						
7/14(木)				移動(デリー→関空→大阪市大)		
7/15(金)	9:00	~	12:00	災害・外傷・救急教育研修(オリエンテーション・総論担当 半日間)	救命センター	英語 大阪市大
7/15(金)	13:00	~	17:00	災害・外傷・救急教育研修(熱傷・特殊感染症 半日間)	救命センター	英語 大阪市大
7/16-7/18		~		予備日(休日)		
7/19(火)	9:00	~	11:00	災害・外傷・救急教育研修(災害医療担当 半日間)	救命センター	英語 大阪市大
7/19(火)	11:00	~	12:00	歓迎式典		
7/19(火)	13:00	~	17:00	災害・外傷・救急教育研修(ドクターヘリ・ドクターカー担当半日)	救命センター	英語 大阪市大
7/20(水)	8:00	~	9:00	移動(大阪市大宿舎→府中病院)		
7/20(水)	9:00	~	17:00	ER型救急医療施設見学	府中病院	英語 府中病院 和泉市
7/20(水)	17:00	~	18:00	移動(府中病院→大阪市大宿舎)		
7/21(木)	8:00	~	9:00	移動(大阪市大宿舎→東住吉森本病院)		
7/21(木)	9:00	~	17:00	ER型救急医療施設見学	東住吉森本病院	英語 東住吉森本病院
7/21(木)	17:00	~	18:00	移動(東住吉森本病院→大阪市大宿舎)		
7/22(金)	9:00	~	12:00	災害・外傷・救急教育研修(初期診療担当半日)	救命センター	英語 大阪市大
7/22(金)	13:00	~	17:00	災害・外傷・救急教育研修(実習担当)	救命センター	英語 大阪市大
7/23(土)	7:00	~	9:00	移動(大阪市大→MEDDEC神戸医療機器開発センター)		
7/23(土)	9:00	~	17:00	ATOMコース(Advanced Trauma Operative Management)第10回大阪市立大学コース		英語 神戸医療機器開発センター
7/23(土)	17:00	~	20:00	移動(MEDDEC神戸医療機器開発センター→大阪市大)		
7/24(日)		~		予備日(休日)		
7/25(月)	7:00	~	9:00	移動(大阪市大→加古川医療センター)		
7/25(月)	9:00	~	17:00	ドクターヘリ実習(出勤・Drヘリ見学)	救命センター	英語 加古川医療センター
7/26(火)	9:00	~	17:00	ドクターヘリ実習(Drヘリ基地見学・災害医療センター)	救命センター	英語 兵庫県災害医療センター
7/26(火)	17:00	~	19:00	移動(医療センター→大阪市大)		
7/27(水)	9:00	~	12:00	災害・外傷・救急教育研修(外傷医学担当半日)	救命センター	英語 大阪市大
7/27(水)	13:00	~	17:00	災害・外傷・救急教育研修(実習担当)	救命センター	英語 大阪市大
7/28(木)				移動(大阪市大→関空→デリー)		

こちらが7月に初回受け入れた研修生達のスケジュールとなっております。ほぼこの予定通りに実施を行っております。日本側の医師による災害救急医療の講義を英語で行い、インド人側の医師による自国の災害救急医療についてのプレゼンテーションと、その後双方によるディベートなどを行い、問題点を洗い出すという内容となっております。

また、本学は3次救急医療機関となっておりますので、関連施設であるER型の救急病院への実習も含まれております。また、ATOMと呼ばれる外傷診療コースへの参加のほか、基幹病院にてドクターカー及びドクターヘリコプターがどういふもので、どのように運用しているのかなどの実習も行っております。



左上が本学の医学部長とインド総領事館の領事が出席して行われたプログラム開始の式典です。右上はインド側と大きく違う本邦の救急災害医療システムを実際に見ていただき、この後講義を行ったところ。左下はドクターヘリについての説明です。インドにはドクターヘリシステムがなく、陸軍が軍の傷害患者を搬送するために1台だけ所有しているそうです。それ以外にはドクターヘリのシステムが全くないということですので、実際に運用している基幹施設へ行き、運用や利点について問題点等も含めて説明しているところ。右下の写真は、外傷診療におけるトレーニングコースに参加していただいているところ。

**② 日本人専門家のインド共和国への派遣(サマリー)**

派遣期間(移動も含む)	日数(移動含む)	派遣先国名(一行に1か国の記載)	氏名	職種	所属	備考
H28.08.19～H28.08.21	3	インド共和国	中島清一	教授	大阪大学	
H28.10.20～H28.10.24	5	インド共和国	溝端康光	教授	大阪市立大学	
H28.10.20～H28.10.24	5	インド共和国	西村哲郎	准教授	大阪市立大学	
H28.10.20～H28.10.24	5	インド共和国	野田智宏	病院講師	大阪市立大学	
H28.10.20～H28.10.24	5	インド共和国	高松純平	救急部長	関西労災病院	

受け入れだけでなく、本校の救急災害医療分野の日本人医師をインドに派遣して、実態調査や、現地の指導者の方々ととの討議なども行っております。



**Consulate General of India T. Armstrong Changsan 氏訪問**  
交流・研修生の受け入れに際して、インド政府側に公式に伝えるべく、2016年7月4日在大阪神戸インド領事館T. Armstrong Changsan総領事を公式に訪問し、趣旨説明と支援体制を確約していただいた。また、研修の受け入れ開始式典には領事館からの出席をしていただいた。



**Minutes of the meeting of the Round Table Conference of Indo-Japan Collaboration (held on 20.08.2016)**  
日印間の医療面での協力関係について2016年8月20日に全インド医科大学 (AIIMS) 日本の関係する大学・在インド大使館との間で円卓会議を行った (Vigyan Bhawan, New Delhi)。会議にはAIIMSの MC Misra 学長も交えて今後の協力体制・発展していく方向性について討議・確認を行った。

研修開始に際しては、在大阪のインド総領事を訪問しまして、研修に対する支援体制も約束していただいております。昨年8月の研修の最中に、AIIMS 側の Misra 学長とも円卓会議を行いまして、在インドの日本大使館からも関係者に出いただき、今後の方向性等も含めて討議を行っております。



インドでの現地の調査の様子です。右上は、混雑して全く統制がとれていない全インド医科大学の外来です。救急外来に1日600人来るのだと当たり前のように言う彼らに驚きました。ほとんど無いに等しい病院前救護体制を含め、色々調査を行わせていただきました。調査を通じて、こちらから協力介入できる部分は、まだまだ多々あると感じました。

**②事業の成果**

**我が国の災害救急医療教育をAIIMS側に実践することにより、AIIMS側医師の災害救急医療が向上するという点**  
全インド医科大学での選抜を受けた若手のリーダー的な医師・看護師であり、彼らにこのような研修をさせることによって当初の目的は達成できたと思われる。

**インド国内で日本標準の災害救急医療を行う医師・看護師が増加するという点**  
この事業を通じてインド医学会のリーダーである全インド医科大学 (AIIMS) ER部門及び外傷センター部門、及び学長であるDr. Misraとの緊密な連携が築かれた。受講生からも、今後さらに日本標準の災害救急医療をAIIMS側に取り入れていきたいとの要望が強かった。

これらの継続・発展要請に加えて、後述する政府間の協定にも当事業が明記され、本プロジェクトの方向性が示されたと考える。

事業の成果ですが、AIIMS 側の災害救急医療が向上する点については、選抜された若手のリーダー的な医師、看護師の方々を本邦でトレーニングしたことでかなり効果があったと思います。日本側の災害救急医療協力を非常に深く感動されて、「これらを我々の国にも取り入れていきたい」と意見として強く言われておられました。さらにそのような方々からの伝播効果が期待できると思っております。最初に申し上げましたように、インド医学会のリーダーである AIIMS 側の学長からも非常に強い連携関係を要望されております。



我が国の安倍首相とインド共和国モディ首相との共同宣言にも活動を取り上げていただけました。

FACT SHEET 2016

11 November 2016

Prime Minister Shinzo Abe and Prime Minister Narendra Modi had a summit meeting on November 11, 2016. Following the Joint Statement, they instructed relevant authorities to further advance cooperation in the following areas. The two Prime Ministers reaffirmed their commitment to continue annual summit meetings to give strategic directions to broad and diverse bilateral agendas.

- 63. A round table conference on the cooperation program such as development of medical devices and emergency and disaster medical care among the All India Institute of Medical Science (AIIMS), Osaka University, Osaka City University, Tottori University and National Disaster Medical Center was held in August in 2016.



同時に、安倍首相とモディ首相が昨年 11 月 11 日に日印首脳会議で共同声明を発表されております。外務省のホームページに載っているものですが、赤丸部分のファクトシートの 63 項にも、cooperation について、emergency and disaster medical care among the All India Institute of Medical Science (AIIMS) と大阪市立大学とで行うものとして、今後発展していきたいと明記していただきましたので、このプロジェクトを続けていく方向性を考えております。

本プロジェクトについては第117回日本外科学会期学術集会(2017/4/27 10:00~11:00)において、その成果と今後の展開について発表予定である。

また、日本外科学会等でもこの話を発表させていただき、そのような志のある指導に行くことを希望する若手医師を是非募りたいと思っております。

③今後の課題

今後の研修では、東京の国立病院機構災害医療センター内にある日本DMAT事務局でのトレーニングをコースに組み入れることによって、より確実な災害医療研修が期待できると思われる。この提案は受け入れ先でもある国立病院機構災害医療センター、全インド医科大学にも了解されており、協力関係を進めるうえで是非とも実現したい事項の一つである。

また、本邦の医療技術をインド側に展開するについて、日本側の医療技術者をインド側へ中期派遣して、インド側のニーズと日本側の技術展開をうまく整合させる事が必要と思われる。このため、次年度以降の計画においてはインド側の研修生を受け入れるのみでなく、日本側の医療者(例えばDMAT指導者やER看護師など)をインド側に中期派遣する必要があると考える。

今後の課題は、大きく 2 つあります。日本には DMAT という誇るべき災害医療がありますが、今後の研修では日本 DMAT の事務局でのトレーニングコースを組み入れたいと思っております。また、日本人医師を現地調査だけでなく、指導という意味で中期的にインドに派遣していきたいと思っております。

以上です。ありがとうございました。